

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

第46回 埼玉県医学検査学会情報

開催日：平成30年12月2日(日)

会 場：大宮ソニックシティ

テーマ：『^{ひら}拓く』

サブテーマ：～ 手を広げ、見て、聞いて、知って、覚えて、繋がって～



学術部 堀内 雄太

今回の学会情報は学術担当より、抄録作成のポイントについてです。初めて学会発表しようと考えている方、抄録作成にお悩みの方にとって、少しでも助けになれば幸いです。また、これまで多くの学会などで発表されてきた方にとっては釈迦に説法ですが、初心に立ち返って抄録作成のポイントを見直してみてください。

みなさんが学会誌などで抄録を読んだときに、最初に着目するところはどこでしょうか。多くの方がタイトルだと思います。タイトルは抄録へとつづく扉です。発表内容がわかり、簡潔でわかりやすいタイトルを考え、抄録への扉を“拓いて”もらいましょう。

タイトルが決まったら、抄録作成に取りかかりましょう。基本的に抄録は、①目的、②方法、③結果、④考察、⑤結語で構成されています。

①目的：どのような背景があり、何を目的としているのかを明確にしましょう。

②方法：実際に行なった方法を、客観的かつ簡潔に記載しましょう。

③結果：シンプルに結果のみを書きましょう。

④考察：目的・結果を受けて、飛躍せず確実に言えることだけを述べ、自分の考えや今後の課題をまとめましょう。

⑤結語：これまでの抄録の流れを振り返りながら、簡潔に一言で締めましょう。

また、今学会の抄録では、本文が26文字×18行×2段＝936文字以内（学会HPより雛形をダウンロードできます）、句読点はカンマ「,」、ピリオド「.」を使用する、といった書式上の注意点もあります。

タイトル・抄録が完成したら、同僚や先輩、上司に見てもらいましょう。自分では見落とししていた誤字脱字を指摘されたり、よりの確な表現の文章などをアドバイスしてくれるでしょう。すると、素晴らしい抄録が完成し、学会発表への扉が“拓かれる”こと間違いなしです。

おわりに、今学会では演題登録と抄録の締切日は同日の7月15日(日)です。たくさんの方の演題をお待ちしているとともに、皆様の思いの詰まった抄録を楽しみにしております。

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 確認して役立てよう！

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成30年4月20日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科ー20点

講演 1：2018年CLSIドキュメントの主な変更点

講師：横山 翼（ベックマン・コールター株式会社）

講演 2：平成29年度埼玉県・埼玉県医師会 臨床検査精度管理事業報告

講師 1：毛利 光希（埼玉県立小児医療センター）

講師 2：酒井 利育（自治医科大学さいたま医療センター）

講師 3：小棚 雅寛（埼玉医科大学病院）

講師 4：永野 栄子（獨協医科大学埼玉医療センター）

参加人数：会員62名 賛助会員8名

出席した研究班班員：渡辺典之 永野栄子 毛利光希 酒井利育 砂押克彦 牧俊一
今井芙美 森圭介 小棚雅寛 千葉明日香

研修内容・感想など

本年度最初の研修会で、「確認して役立てよう！」を主題として、「2018年CLSIドキュメントの変更点」と「平成29年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告」の2つのテーマについて各講師に講演していただいた。

2018年CLSIドキュメントの主な変更点では、*Clostridium difficile*のVCMに対する疫学的カットオフ値の設定について解説された。また菌種名が、*Clostridioides difficile*に変更になり、他にも*Propionibacterium acnes*が*Cutibacterium acnes*、*Enterobacter aerogenes*が*Klebsiella aerogenes*など日常的に検出頻度の高い菌種名が変更となった。臨床側へ報告する際には、事前に十分な説明が必要であり、自施設でどのように対応するか考慮しておく必要がある。またカルバペネマーゼの確認試験としてmCIMの他にeCIMが追加となり、検査方法の説明と判定方法について解説された。セリン型βラクタマーゼとメタロ型ラクタマーゼを鑑別する際に有用な検査であるが、臨床的または感染対策的に有用な検査なのかは疑問があり、総合的に判断する必要がある。他にも、*Staphylococcus schleiferi*のMIPICのブレイクポイントの変更についての説明があった。CLSIドキュメントは毎年更新されているため、新しい知識を得て日々の検査に役立てることが重要と感じた。

精度管理事業報告と解説では、フォト（バーチャルスライド含む）、同定、薬剤感受性、グラム染色の結果と評価方法について説明していただいた。フォトは、全ての項目で評価Aが95%以上であった。バーチャルスライドは、初めて抗酸菌について出題したが、グラム染色の判定基準で回答している施設が15施設あったため、コード表の記載について工夫すると報告があった。同定では、評価Aが97.5%以上と極めて良好な結果であった。薬剤感受性検査は、*H. influenzae*のCTRXで評価Aが83.8%に留まった。耐性菌の基準やディスク拡散法の判定方法や日々の精度管理について解説された。また、発育の悪い菌を出題する際の検体準備について課題があった。グラム染色は、極めて良好な結果であった。

各設問において評価が悪かった施設は、問題点を見直し、改善していくことが重要である。

（文責：渡辺典之）

テーマ 初心者・当直者必見！輸血検査の基礎入門 ～ 検査から精度管理まで～

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成30年4月20日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科ー20点

講演 1：平成29年度埼玉県・埼玉県医師会 臨床検査精度管理事業報告

講師：宮川 勇（小川赤十字病院）

講演 2：日当直に役立つ輸血検査

講師：神戸 考裕

(日本赤十字社関東甲信越ブロック 血液センター 埼玉製造所 品質部 検査一課)
参加人数：会員93名 賛助会員5名
出席した研究班班員：渡邊一儀 久保居由紀子 野呂光恵 小林真弓 伊藤佳世 小原佑太
山田攻

研修内容・感想など

今年度最初の研修会であり、精度管理の報告会を兼ねた新人対象の輸血検査講義と新人向けの日当直検査の解説の2演題であった。宮川氏の講演は医師会精度管理の報告データの解析結果を報告しながら、輸血検査の基礎的な取り組み方を述べるものであった。この精度管理は決して特殊な内容ではなく、日常経験する現象を確実に報告するものである。相対的には成績が向上しているが、依然として回答未記入やリスト外からの記入が多い。日常検査の報告の場合がそうであるように、精度管理についても別の検査者による再検査、回答欄の読み合わせといった慎重な姿勢が必要であると感じた。

2演題目の神戸氏の講演は、基礎的な説明を行いながら参加者が様々なトラブルに遭遇した際に自ら解決の糸口が見つけられるような方向に導く画期的な内容であった。異常反応への考え方では氏の経験に基づき合理的な検査法の組み合わせや流れが紹介された。自施設での新人や日当直者への教育のみならず専任者にも十分活用できる有意義な内容であった。

(文責：山田 攻)

テーマ 病理検査室の基本を学ぼう ～ 包埋・薄切の安全管理や工夫 ～

主催 病理検査研究班

実施日時：平成30年 4 月25日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 第13集会室 点数：専門教科-20点

講 演 1：マイクローム替刃の特性と効果的な使用方法

講 師：石井 克英（フェザー安全剃刀株式会社 メディカル商品部）

講 演 2：～病理検体取扱いマニュアル～ 平成29年度精度管理アンケート報告

講 師：関口 久男（埼玉県済生会栗橋病院 臨床検査科）

講 演 3：包埋の安全管理や工夫

講 師：森田 繁（さいたま市立病院 中央検査科）

講 演 4：薄切の安全管理

講 師：金泉 恵美子（埼玉協同病院 検査科病理）

参加人数：会員70名（申請中を含む）

出席した研究班班員：岡村卓哉 三鍋慎也 細沼佑介 高橋俊介 金泉恵美子 小島朋子

関口久男 今村尚貴 森田繁 荻真里子

研修内容・感想など

今回の研修会は包埋・薄切時の安全管理について4人の講師の方に講演をしていただいた。

講演1は替刃の歴史の話に始まり、替刃の種類別特徴などに付いて品質グラフを使い薄切回数と収縮率の変化を数値化し詳細な説明がなされた。刃先加工や樹脂コーティングについては、替刃の製造者側ならではの講演であり大変興味深い内容であった。講演2は病理学会より指針として示された病理検体扱いマニュアル（以下マニュアル）の説明と平成29年度精度管理報告がされた。マニュアルを認識している施設が多くを占めてはいるが、時間・人員・コスト面で導入が困難な事項があることが判明し検査室での苦労が察せられた。講演3の包埋安全管理や工夫についてはアーチファクトと注意点を説明され、セルブロックのコンタミ対策やESDの包埋の工夫の講演をしていただいた。講演4の薄切の安全管理についてはマニュアルで推奨されている“薄切は1ブロックごとに行い、スライドガラスに薄切切片の貼付を完了してから次のブロックの薄切に移る”について、比較検討されていた。結果は、まとめて作業を行うよりも推奨されている方法が時間短縮されるということであった。

今回はテーマに基本の文字が入っていた為か、多くの新人の方に参加頂いた。新人教育の一環として上司からの参加要求があったと聞き、病理検査室の安全管理への関心の高さが窺えた。

(文責：荻 真里子)

テーマ 精度管理で注意すべき点 ～ 血液検査における精度管理の保証 ～

主催 血液検査研究班

実施日時：平成30年4月25日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科ー20点

講 演 1：平成29年度埼玉県・埼玉県医師会

臨床検査精度管理事業報告と解説（血液）「総論と血球」

講 師：圓田 和人（戸田中央臨床検査研究所）

講 演 2：「血液検査に必要な基礎知識」

講 師：萩原 朋子（シスメックス株式会社）

参加人数：会員61名＋申請中4名

出席した研究班班員：原誠則 星孝夫 網野育雄 圓田和人 軍司雅代 蔵光寛行 渋川絵美
中山智史 石井千晴**研修内容・感想など**

はじめに、平成29年度の埼玉県・埼玉県医師会 臨床検査精度管理事業報告と解説として、フォトサーベイの結果と解説、アンケート結果の集計報告がされた。フォトサーベイは基礎的な項目であったこともあり、概ね良好な結果となっていた。正答率の低かった項目については、今後の形態セミナー等でも採り上げていきたい。また、講師は精度管理に使用した症例にかかわる骨髄異形成症候群（MDS）と貧血の起こる機序についても交えて講演された。アンケート結果では、各施設での血液形態の実施状況（血液像の依頼件数や機械測定目視判定の数、人員数、骨髄穿刺検査の有無や件数など）の集計結果が示され、施設の規模や特性によって求められる検査の違いや人員数や技術の向上維持について苦慮している様子が見えられた。また、今後企画して欲しい演題について貴重なご意見をいただいたことに感謝し、今後の研修会に役立てていきたいと思う。

続いて、精度管理についての基礎的なことから注意点などを、内部精度管理について中心に講演をいただいた。検査の質を保つために精度管理は重要であるので、値付けからしっかり関わり、日々の検査をより良くしていくことを再認識できる講演内容となった。

(文責：石井千晴)

テーマ 平成29年度精度管理報告と甲状腺検査について

主催 血清検査研究班

実施日時：平成30年4月26日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科ー20点

講 演 1：平成29年度埼玉県・埼玉県医師会精度管理事業報告（血清）

講 師：藤代 政浩（獨協医科大学埼玉医療センター）

講 演 2：内分泌検査の重要性（甲状腺ホルモンを中心に）

講 師：山田洋一（ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社）

参加人数：会員41名 賛助会員2名

出席した研究班班員：庄司和春 鈴木淳子 鯨井智子 中別府奈穂子 岩崎篤史 天野直樹
田中亜紀 多川裕介**研修内容・感想など**

今回の研修会では「平成29年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告（血清）」を藤代氏に、「内分泌検査の重要性（甲状腺ホルモンを中心に）」という演題で山田氏に講演していただいた。

精度管理事業報告では、平成29年度も各項目において全体的に良好な結果が得られたということであった。しかしながらD評価の施設も少数ながら存在し、その原因のほとんどが測定結果の入力ミスとのことであった。入力ミスは毎年血清検査に限らずどの検査でも起きており、今後もどの施設でも起こりうるものである。今回入力ミスの無かった施設でも精度管理調査の報告の際には注意して頂ければと思う。また、免疫血清検査では測定原理が同じであっても試薬メーカーによって差もあるため、自施設の測定試薬にどのような特徴があるのか、他のメーカーの測定試薬との違いを理解することで精度管理の向上にもつながるのではないかと考える。

内分泌検査の重要性（甲状腺ホルモンを中心に）では、まず下垂体前葉に各種ホルモン産生細胞がモザイク状に存在することや甲状腺の解剖的位置、甲状腺ホルモンの分泌調整機構であ

るネガティブ・フィードバック等基本的な部分を説明していただいた。

次にFT₄高値と継続検査の意義としてバセドウ病の薬であるメルカゾールとFT₄値、がん治療と内分泌検査について説明していただいた。メルカゾールの服用中は服用開始から2週間に一度FT₄を測定する。3ヶ月間の服用期間中FT₄値は大きく上下し、7ng/dL付近に何度もなり、メルカゾールも30mgと15mgの増減を繰り返す。また、バセドウ病患者のFT₄値において5ng/dL以下が軽症、5～7ng/dLが中等症、7ng/dL以上で重症と分けられるとのことだった。がん化学療法では薬効と有害事象のバランスが重要であり、有害事象を客観的に評価する手法としてCTCAEがある。CTCAEは5段階のGradeで分けられており、Grade2までは化学療法優先、Grade3以上は有害事象の治療を優先する。そのため、Grade2の上限というのは重要であり、AST等の生化学検査項目では基準値上限の何倍の値かでGrade2の上限を決めている。CTCAEは内分泌検査についても記載されており、ACTHやLH等下垂体ホルモンの測定値の異常や症状の有無等でGrade2の上限を決めている。

今回の研修会で学んだことを今後の日常業務に活かしていければと思う。

(文責：多川裕介)

テーマ 動物由来感染症 ～ 最近の話題も含めて ～

主催 公衆衛生・微生物検査研究班合同

実施日時：平成30年 5 月11日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：専門教科ー20点

講 師：兼島 孝 (みずほ台動物病院)

参加人数：会員59名 非会員1名

出席した研究班班員：

公衆衛生研究班：穴原賢治 富井貴之 鈴木勤 石井孟 鈴木智子 吉田翔平 菊地孝司

微生物検査研究班：永野栄子 今井英美 千葉明日香 毛利光希

研修内容・感想など

今回は動物由来感染症について、獣医師の兼島氏にご講演をしていただいた。講演は兼島氏の日々の業務内容に始まり、日本のペット事情、動物由来感染症の各論に亘るまで幅広い内容だった。

ヒトの感染症は約1500～1700種、そのうち動物由来感染症は約800種、そのうち重要な感染症は約150種、そのうち国内では約40種が問題とのことだった。兼島氏が危惧している動物由来感染症として狂犬病を挙げられた。狂犬病は1954年を最後に国内発生の患者死亡はないが、海外特にアジア圏では未だに狂犬病の脅威にさらされている国が多いことから、海外渡航先での感染には注意が必要である。狂犬病の他、最新の話題として重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、オウム病等も紹介された。ペット由来の真菌感染の症例では、誤診による初期治療失敗を経て、最終的に完治した症例が紹介され、改めて原因を迅速にまた正確に知ることの大切さを感じた。

狂犬病の動画を始め、貴重な画像も多くご紹介いただき、大変充実した内容の研修会となった。

(文責：菊地孝司)

テーマ 免疫グロブリン検査について学びましょう 「IgGAMに関する疾患と測定意義」

主催 血清検査研究班

実施日時：平成30年 5 月24日 19時00分～20時15分

会 場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：専門教科ー20点

講 師：土井 創 (ニッポーメディカル株式会社)

参加人数：会員32名

出席した研究班班員：庄司和春 鈴木淳子 多川裕介 岩崎篤史 天野直樹 田中亜紀
鯨井智子

研修内容・感想など

免疫グロブリンの検査、IgG、IgA、IgMそれぞれに関する疾患と測定意義について土井氏に以下の①～⑤についてご講演いただいた。

①免疫とは：生体が自己と非自己を識別して非自己を排除するために行う反応の総称であ

り、免疫には自然免疫と獲得免疫があり、獲得免疫には細胞性と体液性がある。

②免疫グロブリンとは：抗体の物質名の総称で、IgG、IgA、IgM、IgD、IgEの5種類がある。免疫応答には、一時免疫と二次免疫がある。M蛋白は形質細胞が異常に増殖した際に大量に産生される単一性の免疫グロブリンのことであり、日本ではIgG型が59.1%と最も多い。

③免疫グロブリンと疾患：免疫グロブリンの測定は疾患を特定するものではなく、免疫状態を把握する為に行われることが多い。特に感染症、免疫不全、自己免疫疾患、多発性骨髄腫及びマクログロブリン血症のモニタリングとして有用である。

④免疫グロブリンの測定方法：散乱光を測定する比濁法と透過光と一部の散乱光を測定する比濁法がある。IgG、IgA、IgM、IgEは高濃度まで測定できる比濁法、IgDは低値の感度の良い比濁法が用いられる。反応の最初から最後まででの測光ポイント毎の吸光度を追跡したタイムコースは異常反応を見つけやすい。

⑤免疫グロブリンと異常症例：異常症例においては、A/G比及び測定上限のチェック、検体希釈再検が重要である。

免疫グロブリン測定は疾患に特異的なものではないが、様々な疾患のモニタリングに有用であると改めて認識した。

(文責：鯨井智子)

テーマ 生理機能検査の基礎知識と患者急変時の対応

主催 生理検査研究班

実施日時：平成30年 5 月26日 14時30分～17時40分

会 場：自治医科大学附属さいたま医療センター 南館 2階講堂

点数：専門教科—20点

講 演 1：心電図の基礎と読み方

講 師：高梨 淳子(北里大学メディカルセンター)

講 演 2：AEDの使用方法和注意点

講 師：眞鍋 匡(日本光電工業株式会社)

講 演 3：救急カート内の薬品と器具の取り扱い方法

講 師：柳澤 三穂(獨協医科大学埼玉医療センター)

参加人数：会員69名

出席した研究班班員：早川勇樹 仲野浩 瀧澤義教 高梨淳子 武藤由里子 田名見里恵
横尾愛 園部由香

研修内容・感想など

例年通り最初の研修会は初心者向けの内容を企画した。まずは、生理機能の基礎知識として「心電図の基礎と読み方」を高梨氏に講演いただいた。心電図の歴史から始まり心臓の解剖と機能、そして、心電図の種類や誘導法、電極装着部位、記録方法など基本的な内容をお話いただいた。特に心電図電極の種類によって材質が異なり、接触抵抗や伝導率が違うため種類の違う電極を使用すると心電図波形に影響が出るという事を始めて知った方も少なからずいると思われる。その後、心電図の判読として心電図波形からわかること、心電図記録のポイント、基準値と代表波形、危険な心電図、治療が必要となる心電図について講演していただいた。盛り沢山な内容で講演時間が足りなくなってしまうが大変充実した講演であった。

続いて患者急変時の対応として「AEDの使用方法和注意点」を眞鍋氏に講演いただいた。心肺蘇生の一連の流れから子供の心肺蘇生方法やAEDの取り扱い方法、注意点、そしてAEDのメンテナンスについてまでお話いただいた。年間に心臓突然死で亡くなる方は交通事故で亡くなる方の15倍も多く、それを救うためには、いかに心肺蘇生を早く開始できるかであり、そのためには正しい知識を習得する必要があることを再認識させられた講演であった。

最後に患者急変時の対応として「救急カート内の薬品と器具の取り扱い方法」を柳澤氏に講演頂いた。まずはSTの上昇や下降、頻脈や徐脈などの際に使用する薬剤の違いについてアルゴリズムを基にお話いただいた。その中でも同じ波形変化でも患者状態により緊急度が変わってくるが、それを確認するABCDEのやり方を教えていただいた。また、薬剤を使用する際に必要な輸液セットの作成方法とその注意点、そして材質の違いより使用できない薬剤があることなど、多くの技師が知らないであろうことを詳しく解説していただいた。最後に救急カート日常点検のポイント、最低限知っておくと良いことについてお話いただき講演をまとめていただいた。

(文責：早川勇樹)

平成30年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第2回 理事会議事録

日 時：平成30年5月10日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所
さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)津田 神山 矢作 小山 奈良
猪浦 松岡 石井 濱本 藤井
神嶋 長澤 伊藤 濱田 鳥山
阿部

(監事)遠藤

欠 席：(理事)島村 岡田 長岡 小島 山口
武関

(監事)細谷

本日の理事会の出席者は17名であった。理事の出席者は16名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (平成30年4月12日～平成30年5月9日)

4月12日(木)平成30年度第1回理事会：

津田、神山、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、神嶋、伊藤、濱田、山口、鳥山、武関、阿部、遠藤、細谷

4月13日(金)第1回表彰審査選考委員会：

津田、神山、岡田、矢作

4月14日(土)会計作業(事務所にて)：

松岡、石井

4月16日(月)検査室管理運営委員会：

藤井、濱田、津田

4月18日(水)第1回会計部会及び監査：

松岡、小島、石井、津田、神山、遠藤、細谷

4月20日(金)第46回埼玉県医学検査学会第6回実行委員会：長岡

4月26日(木)第1回事務局・諸規定検討委員会合同会議：

津田、神山、島村、岡田、矢作、小山、松岡、奈良

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 1) 人間総合科学大学より講師派遣の依頼があり、神山副会長を派遣することとした。
- 2) 第20回埼玉脂質代謝研究会の名義後援を行った。
- 3) 4月13日、第1回表彰審査選考委員会を開催した。
- 4) 4月26日、第1回事務局・諸規定検討委員会合同会議を開催した。

2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第468号、5月15日発行予定
- 2) 平成30年度埼臨技名簿作成に関する案内を埼臨技だよりやホームページ等に掲載した。

3 事業部

- 1) 4月16日、検査室管理運営委員会を開催した。
- 2) 平成30年度新入会員向け研修会を9月7日、大宮ソニック906号室にて開催予定。
- 3) 検体採取講習会実務委員リストを日臨技へ提出した。

4 学術部

- 1) 生涯教育研修会参加登録の不備について(輸血検査研究班、一般検査研究班)
- 2) 平成30年度理事・研究班合同会議を6月29日、さいたま赤十字病院会議室にて開催予定。

5 精度保証部

- 1) 特になし。

6 会計部

- 1) 平成30年度正会員費129名分645,000円、入会金9名分9,000円、合計654,000円の入金があった。
- 2) 極東製薬工業より平成29年10月1日～平成30年3月31日までの、疑似便の特許使用料対価20,039円の入金があった。
- 3) 石井印刷へ埼臨技だより第467号印刷代123,541円を支払った。
- 4) 4月27日、埼玉県医師会より精度管理受託金1,246,272円及び930,000円が振り込まれた。

7 精度管理委員会

- 1) 特になし。

8 一都八県会長会議

- 1) 特になし。

9 日臨技関甲信支部

- 1) 特になし。

10 日臨技

- 1) 特になし。

11 第46回埼玉県医学検査学会

- 1) 4月20日、第6回実行委員会が開催された。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(平成29年度分)

平成30年5月1日現在

会員数 2,905名[平成29年度会員数2,897名]

(新入会員 86名)

賛助会員 34社[平成29年度 86社]

承認された。

- 2) 平成30年度埼玉県公衆衛生事業県知事表彰候補者について

第1回表彰審査選考委員会の選出のとおり承認された。

- 3) 平成30年度都道府県リーダー育成研修会開催について

今年度開催することで承認された。

2 総務部

- 1) 特になし。

3 事業部

- 1) 平成30年・31年度養成校連絡会委員候補者について承認された。
- 4 学術部
 - 1) 特になし。
- 5 精度保証部
 - 1) 特になし。
- 6 会計部
 - 1) 特になし。
- 7 精度管理委員会
 - 1) 特になし。
- 8 第46回埼玉県医学検査学会
 - 1) 特になし。

IV. 議題

- 1) 表彰審査選考規程・細則の修正について
矢作事務局長より表彰審査選考規程・細則の修正について発言があった。これを受けて理事会審議の結果、案のとおり規程・細則の修正を出席理事全会一致で承認された。
- 2) 常勤職員就業規則の新設について
神山副会長より常勤職員就業規則の新設について発言があった。これを受けて理事会審議の結果、案のとおり規則の新設を出席理事全会一致で承認された。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

求人案内

- 医療法人 大宮シティクリニック
採用条件：正職員 臨時職員 (パート)
連絡先：048-645-1256 本部長 星野
- 獨協医科大学埼玉医療センター附属 越谷クリニック
採用条件：臨時職員 (パート)
連絡先：048-965-9138
獨協医科大学埼玉医療センター職員課職員係 三戸
- 一般社団法人 巨樹の会 所沢明生病院
採用条件：臨時職員 (パート)
連絡先：04-2928-9110 総務課 三次
- 医療法人社団 全仁会 上野病院
採用条件：正職員
連絡先：03-3833-8111 事務長 菅谷
- 医療法人 すがやハートクリニック
採用条件：正職員 臨時職員 (パート)
連絡先：048-793-5766 院長 菅谷忠幸
- 社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス 東埼玉総合病院
採用条件：正職員
連絡先：0480-40-1311 総務課 採用担当
- 直心会 帯津三敬病院
採用条件：臨時職員 (パート)
連絡先：049-235-1075 検査科 鈴木
- 埼玉県済生会栗橋病院
採用条件：臨時職員 (パート)
連絡先：0480-52-3611
内線 86403 人事課：横井
内線 86320 検査科：猪浦

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あ と が き

寄生虫じゃない体にいる虫

江戸時代、人間の体には9匹の虫がいて、その虫たちが感情や意識を操作すると信じられていました。いやな予感を「虫の知らせ」、対人関係では「虫が好かない」など自分の意識とは別のものが操作をしているように使われています。

最近、食べて痩せるダイエットの話題を耳にします。その昔はカロリーが低い人工甘味料、コンニャクイモから抽出した成分で満腹感を得る方法などわかりやすい方法でしたが、最近は、「主食をとってOK雑穀米ダイエット!」、「天然植物性の油をとって脂肪を落とす!」、「腸内フローラ改善で-7kg!」 どういう理屈でダイエットにつながるかちょっと難しい方法ばかりです。体にいる9匹の虫が代わりに食べてくれるから太らないのでしょうか? それも「虫のいい話」ですね!



(猪浦 記)